

新聞の魅力学生に

本紙と中日共同授業

静岡から来春
静岡文化芸術大で

静岡新聞社と中日新聞社は2020年4月から、静岡文化芸術大(浜松市中区)で共同連携授業「メディアとしての新聞/社」を開講する。両社の記者や社員が学生に向けて講義する。13日、両社と同大が協定を締結した。両社が連携して大学

で授業を行うのは初めて。新聞を主な教材に、ジャーナリズム論をはじめ文化事業、地域社会への貢献、情報を正しく読み取る「メディアリテラシー」といった多様なテーマを取り上げる。20年度の授業は前期の全15回で、うち静岡新聞社と中日新聞社が6回ずつ講師を派遣し、1回は両社合同で藤裕治教授(メディア)が講義を行う。初回と最終回は文化政策学部の加



同大で開かれた協定締結式で、静岡新聞社の大石剛社長は「新聞は社会に向かって大きく開かれた窓であり、若い人たちに新聞の魅力、必要性を伝えていかなければならない」と語り、中日新聞社の大島宇一郎社長は「新聞は学力向上や就職活動に役立つだけでなく生きるための知恵や判断力、倫理観、思いやりを養ってくれる」と述べた。静岡文化芸術大の横山俊夫学長は「両新聞社の連携授業は来春開学20周年を迎える大学の新たなページになる」と期待を寄せた。協定締結後、握手を交わす(右から)大石剛社長、横山俊夫学長、大島宇一郎社長。13日午後、浜松市中区の静岡文化芸術大